

連結貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

会計:連結会計

(単位:円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	151,779,465,108	固定負債	46,706,882,798
有形固定資産	146,978,867,933	地方債等	25,683,505,748
事業用資産	55,069,731,058	長期未払金	-
土地	29,386,184,606	退職手当引当金	4,026,408,386
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	62,437,483,509	その他	16,996,968,664
建物減価償却累計額	-38,699,568,917	流動負債	4,926,726,206
工作物	5,146,217,482	1年内償還予定地方債等	2,331,259,381
工作物減価償却累計額	-3,465,813,943	未払金	1,432,413,942
船舶	-	未払費用	11,055,582
船舶減価償却累計額	-	前受金	12,236,301
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	459,290,088
航空機	-	預り金	513,959,948
航空機減価償却累計額	-	その他	166,510,964
その他	844,153,880	負債合計	51,633,609,004
その他減価償却累計額	-643,014,121	【純資産の部】	
建設仮勘定	64,088,562	固定資産等形成分	155,541,316,644
インフラ資産	87,959,938,319	余剰分(不足分)	-41,272,552,694
土地	20,241,141,905	他団体出資等分	-
建物	2,040,457,402		
建物減価償却累計額	-465,182,310		
工作物	126,156,307,652		
工作物減価償却累計額	-60,487,815,760		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	475,029,430		
物品	10,755,945,810		
物品減価償却累計額	-6,806,747,254		
無形固定資産	189,301,739		
ソフトウェア	130,541,971		
その他	58,759,768		
投資その他の資産	4,611,295,436		
投資及び出資金	748,951,057		
有価証券	681,816,182		
出資金	62,134,875		
その他	5,000,000		
長期延滞債権	344,076,619		
長期貸付金	4,376,000		
基金	3,504,369,904		
減債基金	134,534,829		
その他	3,369,835,075		
その他	40,558,000		
徴収不能引当金	-31,036,144		
流動資産	14,122,907,846		
現金預金	9,198,799,280		
未収金	884,345,967		
短期貸付金	63,000		
基金	3,761,788,536		
財政調整基金	3,761,788,536		
減債基金	-		
棚卸資産	275,122,812		
その他	12,516,767		
徴収不能引当金	-9,728,516		
繰延資産	-	純資産合計	114,268,763,950
資産合計	165,902,372,954	負債及び純資産合計	165,902,372,954

連結行政コスト計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

会計:連結会計

(単位:円)

科目名	金額
経常費用	63,877,731,224
業務費用	44,451,192,935
人件費	7,150,406,827
職員給与費	5,303,811,058
賞与等引当金繰入額	453,676,088
退職手当引当金繰入額	431,630,463
その他	961,289,218
物件費等	36,034,672,148
物件費	30,636,863,039
維持補修費	460,628,479
減価償却費	4,926,390,329
その他	10,790,301
その他の業務費用	1,266,113,960
支払利息	373,311,054
徴収不能引当金繰入額	33,162,917
その他	859,639,989
移転費用	19,426,538,289
補助金等	3,019,427,282
社会保障給付	16,361,554,163
その他	45,556,844
経常収益	30,947,998,675
使用料及び手数料	4,089,430,941
その他	26,858,567,734
純経常行政コスト	32,929,732,549
臨時損失	89,480,902
災害復旧事業費	14,348,752
資産除売却損	64,400,447
損失補償等引当金繰入額	-
その他	10,731,703
臨時利益	23,604,395
資産売却益	9,581,103
その他	14,023,292
純行政コスト	32,995,609,056

連結純資産変動計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

会計:連結会計

(単位:円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	120,470,261,074	151,517,746,999	-31,047,485,925	-
純行政コスト(△)	-32,995,609,056		-32,995,609,056	-
財源	32,636,623,929		32,636,623,929	-
税金等	21,543,137,672		21,543,137,672	-
国県等補助金	11,093,486,257		11,093,486,257	-
本年度差額	-358,985,127		-358,985,127	-
固定資産等の変動(内部変動)		-3,258,431,017	3,258,431,017	
有形固定資産等の増加		2,027,527,260	-2,027,527,260	
有形固定資産等の減少		-4,977,835,569	4,977,835,569	
貸付金・基金等の増加		1,678,497,039	-1,678,497,039	
貸付金・基金等の減少		-1,986,619,747	1,986,619,747	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	7,280,882,462	7,280,882,462		
他団体出資等分の増加			-	-
他団体出資等分の減少			-	-
比例連結割合変更に伴う差額	4,246,715	1,118,200	3,128,515	
その他	-13,127,641,174	-	-13,127,641,174	
本年度純資産変動額	-6,201,497,124	4,023,569,645	-10,225,066,769	
本年度末純資産残高	114,268,763,950	155,541,316,644	-41,272,552,694	-

連結資金収支計算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

会計:連結会計

(単位:円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	58,508,818,314
業務費用支出	38,788,102,100
人件費支出	6,706,578,344
物件費等支出	30,913,611,810
支払利息支出	373,311,054
その他の支出	794,600,892
移転費用支出	19,720,716,214
補助金等支出	3,313,676,207
社会保障給付支出	16,361,554,163
その他の支出	45,485,844
業務収入	62,925,641,102
税込等収入	21,159,309,628
国県等補助金収入	10,832,177,722
使用料及び手数料収入	4,146,454,949
その他の収入	26,787,698,803
臨時支出	82,578,175
災害復旧事業費支出	14,348,752
その他の支出	68,229,423
臨時収入	14,023,292
業務活動収支	4,348,267,905
【投資活動収支】	
投資活動支出	3,269,029,129
公共施設等整備費支出	1,946,480,455
基金積立金支出	1,320,718,674
投資及び出資金支出	30,000
貸付金支出	1,800,000
その他の支出	-
投資活動収入	1,379,135,535
国県等補助金収入	342,699,177
基金取崩収入	985,183,655
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	12,532,161
その他の収入	38,720,542
投資活動収支	-1,889,893,594
【財務活動収支】	
財務活動支出	2,677,327,484
地方債等償還支出	2,557,668,019
その他の支出	119,659,465
財務活動収入	924,401,784
地方債等発行収入	924,400,000
その他の収入	1,784
財務活動収支	-1,752,925,700
本年度資金収支額	705,448,611
前年度末資金残高	7,990,004,787
比例連結割合変更に伴う差額	2,980,603
本年度末資金残高	8,698,434,001
前年度末歳計外現金残高	505,232,533
本年度歳計外現金増減額	-4,867,254
本年度末歳計外現金残高	500,365,279
本年度末現金預金残高	9,198,799,280

注記

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

①有形固定資産・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア. 昭和59年度以前に取得したもの・・・再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地においては備忘価額1円としています。

イ. 昭和60年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・再調達原価

ただし、取得価額が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

②無形固定資産・・・原則として取得原価

ただし、取得価額が不明なものは、再調達原価としています。

(2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

①満期保有目的有価証券・・・償却原価法（定額法）

②満期保有目的以外の有価証券

ア. 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格（売却原価は移動平均法により算定）

イ. 市場価格のないもの・・・取得原価（又は償却原価法（定額法））

③出資金

ア. 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格（売却原価は移動平均法により算定）

イ. 市場価格のないもの・・・出資金額

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品・・・先入先出法による低価法

(4) 有形固定資産等の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）・・・定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 15年～60年

工作物 10年～60年

物品 2年～20年

②無形固定資産（リース資産を除く）・・・定額法

（ソフトウェアについては、法定耐用年数（5年）に基づく定額法によっています。）

③所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

①徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不能欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去5年間の平均不能欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去5年間の平均不能欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

②退職手当引当金

退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち湖西市へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。

③損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。

④賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

①ファイナンス・リース取引

ア. 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除く）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ. ア. 以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

②オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（容易に換金可能であり、かつ、価値変動が僅少なもので、3か月以内に満期が到来する流動性の高い投資を言います。ただし、一般会計等においては、湖西市資金管理方針において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等としています。）

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(8) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

ただし、一部の連結対象団体（会計）については、税抜方式によっています。

(9) 連結対象団体（会計）の決算日が一般会計等と異なる場合の処理

決算日と連結決算日の差異が3か月を超えない連結対象団体については、当該連結対象団体の決算を基礎として連結手続を行っていますが、決算日と連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。また、決算日と連結決算日との差異が3か月を超える連結対象団体（会計）については、仮決算を行っています。

2. 重要な会計方針の変更等
該当事項なし

3. 重要な後発事象
該当事項なし

4. 偶発債務
該当事項なし

5. 追加情報

(1) 連結対象団体（会計）

団体（会計）名	区分	連結の方法	比例連結割合
国民健康保険事業特別会計	地方公営企業会計	全部連結	—
介護保険事業特別会計	地方公営企業会計	全部連結	—
後期高齢者医療事業特別会計	地方公営企業会計	全部連結	—
水道事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
病院事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
公共下水道事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
湖西市土地開発公社	地方三公社	全部連結	—
浜名湖観光企業団	一部事務組合・広域連合	比例連結	33.33%
浜名学園	一部事務組合・広域連合	比例連結	59.46%
静岡県後期高齢者医療広域連合	一部事務組合・広域連合	比例連結	1.45%
静岡地方税滞納整理機構	一部事務組合・広域連合	比例連結	1.20%
静岡県市町総合事務組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	5.28%
社会福祉法人湖西市社会福祉協議会	第三セクター等	全部連結	—

連結の方法は次のとおりです。

①地方公営企業会計は、すべて全部連結の対象としています。

②一部事務組合・広域連合は、各構成団体の経費負担割合等に基づき比例連結の対象としています。

③地方三公社は、すべて全部連結の対象としています。

④第三セクター等は、出資割合等が50%を超える団体（出資割合等が50%以下であっても業務運営に実質的に主導的な立場を確保している団体を含みます。）は、全部連結の対象としています。また、いずれの地方公共団体にとっても全部連結の対象とならない第三セクター等については、出資割合等や活動実績等に応じて、比例連結の対象としています。ただし、出資割合が25%未満であって、損失補償を付している等の重要性がない場合は、比例連結の対象としていない場合があります。

(2) 出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の係数をもって会計年度末の係数としています。

なお、出納整理期間を設けていない団体（会計）と出納整理期間を設けている団体（会計）との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。